

潰瘍性大腸炎の新しい血液マーカー 治療効果を予測する「抗 $\alpha v \beta 6$ 自己抗体」

Anti-Integrin $\alpha v \beta 6$ Autoantibodies Predict Response and Treatment Persistence to Advanced Therapies in Ulcerative Colitis

渋谷俊祐^{1,2}、阿曾沼邦央¹、黒沼智³、岡林慎二⁴、野上章⁵、小松萌子⁵、芹澤奏⁵、梅田智子⁵、佐上晋太郎¹、Galia Berman⁶、竹内修³、中野雅⁵、日比紀文¹、Nitsan Maharshak⁶、前田慎²、小林拓¹

¹ 北里研究所病院、炎症性腸疾患先進治療センター、² 横浜市立大学、³ 北里研究所病院、研究部、⁴ 京都大学、⁵ 北里研究病院、消化器内科、⁶ Tel Aviv Medical Center

雑誌名: *Clinical and Translational Gastroenterology*

URL: <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41642243/>

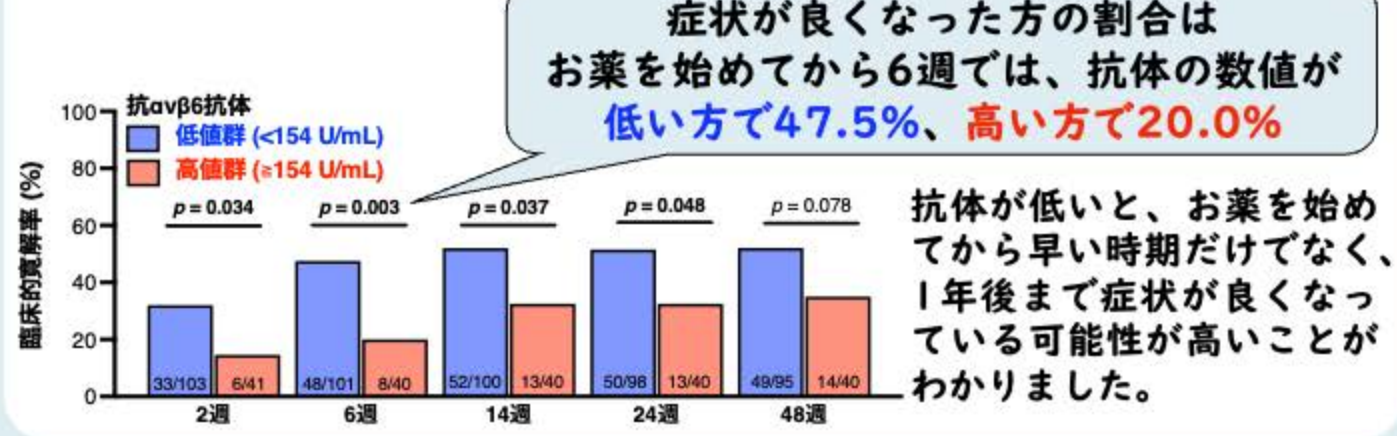
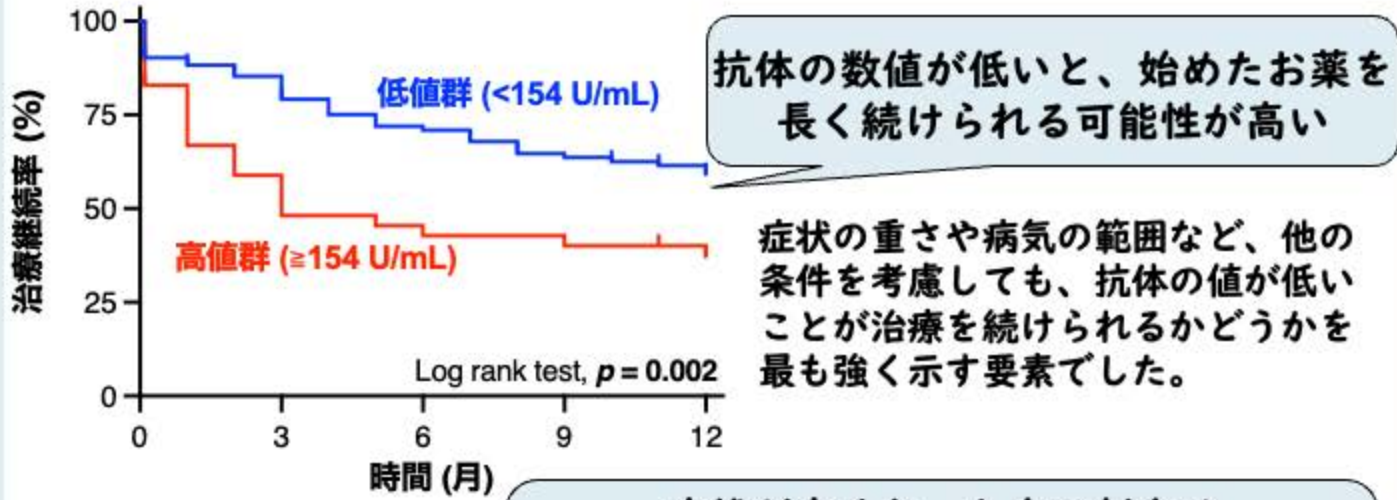
この研究で知りたかったこと

潰瘍性大腸炎の治療は、生物学的製剤やヤヌスキナーゼ阻害薬などの新しいお薬が登場し、大きく進歩しました。しかし、「この治療がその人に合うかどうか」を治療を始める前に正確に知ることは、まだ簡単ではありません。

最近、血液検査で測定できる抗 $\alpha v \beta 6$ 自己抗体が潰瘍性大腸炎の診断バイオマーカーとして注目されています。この研究では、お薬を始める時点でこの抗体を測ることで治療の効きやすさを予測できるかどうかを調べました。

わかったこと

お薬を始めた活動期の潰瘍性大腸炎の患者様144名にご協力いただきました。



これからの治療へのヒント

抗 $\alpha v \beta 6$ 抗体は、治療が効きやすいかどうか、治療を長く続けられそうかどうかを知るためのヒントになる可能性があります。将来的には、治療が合いにくい可能性のある方を早めに見つけ、その方にあった治療を選ぶための手助けになることが期待されます。

最後に、この研究にご協力いただいた患者様、先生方、スタッフの皆様に深く感謝申し上げます。この研究が多くの方の潰瘍性大腸炎で悩まれている多くの方のお役に立てれば嬉しく思います。

(文責 渋谷俊祐)